

令和7年

10/11 土

①開場13:00 開演13:30

②開場18:00 開演18:30

10/12 日

③開場13:00 開演13:30

会場/コーチャンフォー釧路文化ホール
小ホール TEL.0154-24-5005入場料/大人：1,500円(前売)
2,000円(当日)

高・大学生：1,000円(前売・当日)

小・中学生：500円(前売・当日)

●チケット取扱所

釧路市生涯学習センター「まなぼと幣舞」

コーチャンフォー釧路文化ホール

コーチャンフォー釧路店

作・演出
尾田 浩戦後80年
釧路空襲

市民参加劇

《最終公演》

釧路演劇集団創立52周年

1945年「昭和20年」
7月14日早朝〇〇〇あの日は、厳島神社のお祭りの日だった。
幣舞橋河畔にサーカス小屋も立ち、
子供たちも楽しみにしていた日だった。

主催/釧路市芸術祭実行委員会

共催/釧路市・釧路市教育委員会・(一財)釧路市民文化振興財団

後援/北海道新聞釧路支社・釧路新聞社・朝日新聞釧路支局・毎日新聞北海道支社・読売新聞釧路支局・NHK釧路放送局・STV釧路放送局

HTB釧路支社・エフエムくしろ・釧路演劇協議会

主管：釧路演劇集団

お問い合わせ先：釧路演劇集団(尾田) TEL.090-5980-0174

市民とともに

「地域に根ざす演劇活動」を目標に1973年（昭和48年）に創立し今年52周年を迎えた釧路演劇集団は、この公演で最終公演となります。

地域に取材した地元の演劇を創造することを目標に活動してきました。劇団の転機になったのが創立20周年を迎えた時でした。地域の歴史を調べその中で生きてきた人々を通じて、釧路のことを再認識してほしいという思いが、市民参加の演劇づくりでした。

そして、生まれたのが『警鐘』三部作（1994・1998・2003年）です。釧路市内で旅館「岩木屋」を舞台に、大正8年1月3日の西幣舞大火、昭和3年のマグロ景気の中で翻弄される人たち、創立30周年で完結編として上演されたのがこの「釧路空襲」です。

昭和20年6月、釧路にも戦火の色濃くなる中、男たちは戦場へ行き、女たちは家と子供を守り誰もが懸命に生きていました。岩木屋旅館は戦争の物資不足で営業出来ずささやかに暮らす中、女将かよの息子真治は満蒙開拓団として満州に渡り、その後招集されたくしく行方不明になっていました。そして、真治が戦死したという死亡告知書が届きます。家族は深い悲しみにくれるが、信じようとしなやかよ。

そして、7月14日午前5時過ぎ、ついに釧路の上空にアメリカ軍の艦載機グラマンの轟音が……

今だ戦火が絶えないこの地球上に「警鐘」は鳴り続けています。

劇団員はじめ市民参加の出演者の舞台からあふれる思いにご期待ください。

◆ ◆ キャスト ◆ ◆

岩田 源蔵（岩木屋主人）	浅太郎	阿 部（熊部隊初年兵1）	菊池 一夫
岩田 かよ（女将）	及川 晴代・三上 裕子	石 田（熊部隊初年兵2）	鈴木 清
岩田 真治（かよの息子）	清水 秀紀	岡 山（連隊司令部）	阿部壮太郎
木村啓太郎（真知子の夫）	檜垣 秀行	佐久間（サーカス小屋の人1）	山端 悠
木村真知子（かよの娘）	田川ひとみ・早坂 幸枝	遠 山（サーカス小屋の人2）	朝川 綺珠
木村 晶子（木村家長女）	藤井さおり・宇佐実るか	村 田（大日本婦人会班長）	小川由紀子・石井 裕子
木村 信子（木村家次女）	渡部 花音	池 上（大日本婦人会）	福島 萌
おみわ（本別在住農家）	橋本あずさ・三島 千寿	高 橋（大日本婦人会）	野村菜々美
おとき（漁師のおかみ）	山口 豊子・松実とよみ	山 田（大日本婦人会）	成瀬 雅子
石 川（町会長）	近江 隆弘	高 山（大日本婦人会）	館石 花音
佐 藤（在郷軍人会）	とにい	山 本（大日本婦人会）	三島 七海
鈴 木（連隊司令部将校）	谷口 敦	坂 本（大日本婦人会）	如月 志帆
渡 辺（市役所兵事係）	岡田 俊哉	小 島（大日本婦人会）	小田原さち
関 本（憲兵隊下士官）	大泉 凡	柴 田（大日本婦人会）	浅野 聡子
山 内（警防団班長）	三上 一典	平 岩（大日本婦人会）	中村 浩子
高野・長野（海軍一等兵曹）	工藤 潤也・佐藤 恭快	成 田（避難する子供）	佐々木ひなた
加 藤（熊部隊伍長）	ウインター	女の先生	大泉さおり

◆ ◆ スタッフ ◆ ◆

作・演出	尾田 浩	衣 装	松実とよみ・山口豊子
舞台監督・大道具	坂野 恵造		藤井さおり・北澤恵津子
舞台監督助手	清水 秀紀		中村 浩子・成瀬 雅子
装 置（北海道共立）	梶谷 毅		浅野 聡子・大泉さおり
照 明（北海道共立）	荒谷 武男	メイク	油谷 好子
音響効果（北海道共立）	菊地 萌	ポスターデザイン	小川 健一（株昇夢虹）
音 楽	石丸 基司	稽古場提供	鮮明寺（釧路市寿）
演出助手	及川 晴代・橋本あずさ	制 作	谷藤奈保子・三島 千寿
小道具	檜垣 秀行・田川ひとみ		小川由紀子・遠藤 若枝
	宇佐実るか		野村菜々美
置道具	中野 吉次（なつかし館）	印 刷	藤プリント
写真記録	江藤 直樹		